

〔科目名〕 社会保障論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 展開
〔担当者〕 大矢 奈美	〔オフィス・アワー〕 時間： 授業の開始時に提示します。 場所： 研究室(523)	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 我が国では、少子・高齢化の進展により、医療、介護、年金などといった社会保障制度の重要性が高まっている。また、新型コロナウイルス感染拡大によって鮮明になったように、日本においても深刻な貧困問題が存在しており、その対応の多くを担うのが社会保障制度である。一方で、今後の社会保障関連支出増大をにらみ、税や保険料負担の引き上げ、社会保障給付の削減などが検討・実施されている。これらの政策をどのように評価することができるのか。 この講義では、まず社会保障とは何か、その理念とは何かということについて考える。社会保障制度は、「互いに助けあい支えあう」ことを基本として成立しているものと考えられるが、実際の運用には資金が必要となる。これを誰がどのように負担するのかということは重要な問題だろう。よって、本講義では、日本の社会保障制度の概要を主に経済の側面から分析する。 社会保障は範囲も広く、多岐にわたっているため、残念ながら全ての分野について取り上げることは難しい。そこで個別の制度としては、公的年金と医療制度、および生活保護を取り扱い、それ以外の制度はレポート課題の設定などによって受講生が独自に学ぶような仕組みにしたい。また、社会保障制度は社会の変化に対応する必要もあるため、政府内でも継続して改正案が検討され、細かな変更が重ねられている。よって、制度に関しては2021年3月時点の現行制度を対象とし、適宜、改革案などについて紹介することとする。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 現代日本人の生活は、社会保障制度によって支えられている。たとえば公的医療保険。日本では一部の例外を除き、全国民が加入することになっており、自己負担3割で医療サービスを受けることができるが、産業構造や日本人の年齢構成が変化し、医療が高度化していくなかで、この医療保険制度も様々な問題を抱えている。公的年金制度も、私たちが意識している以上に身近な存在だ。長生きをしてしまうリスクだけでなく、たとえば働き盛りに事故に遭遇し障害をおってしまうリスク、家族を遺して死亡してしまうリスクが発生した際に所得を保障する役割を持っている。しかし、人口構成の変化によって給付水準の維持が難しくなり、それが制度に対する国民の不安・不信をもたらすという悪循環や、非正規雇用の拡大にともなう国民年金の保険料未納問題など、公的年金制度が抱える問題も多い。果たして、多くの報道記事に見られるように日本の社会保障制度は信頼に値しないものなのだろうか。 講義を通じ、社会保障制度とは何か、どのような理念に立つものか、現行制度の仕組みや問題点、どのような方向性が望まれるのかを考えることにより、この問題への答えの手がかりを得ることができるかもしれない。 この講義では社会保障の問題を日本経済と結び付けて検討するというアプローチをとる。よって、1年時次に履修する日本経済概論、2年次に履修するマクロ経済学の知識を前提とする。社会保障関連支出を考えるにあたっては、政府の財政状況に関する知識（財政学）、経済統計で扱った統計に関する知識も必要になる。また社会保障制度には雇用・生活扶助に関するものも含まれるので、労働経済学にも重なる分野でもある。財政学、労働経済学の関連する分野については講義中に適宜説明を加えることを考えている。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ・ 社会保障の意義について、受講生自身が、自分の意見を持つ。 ・ 日本の社会保障制度の枠組みを把握する。 ・ 公的年金、医療制度、公的扶助の概要を理解し、これらの制度改革に対する自分なりの意見を持つ。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 板書について改善をもとめる意見が見られた。設備上の限界はあるが、今年度も板書等の文字は見やすいものになるよう心がけ、細かなデータはできるだけ配布資料にすると工夫を考えた。 マスク着用での連続した発声は体力を消耗するので、しっかり内容を講義できるよう、体力維持に努めたい。		

〔教科書〕 特に指定しない。	
〔指定図書〕 ・ 棕野・田中『はじめての社会保障』（第18版）有斐閣，2021年3月末刊行予定。 ・ 小塩隆士『社会保障の経済学』（第4版）日本評論社，2013。	
〔参考書〕 ・ 西村淳編著『入門テキスト 社会保障の基礎』東洋経済新報社，2016。 ・ 小塩隆士『効率と公平を問う』日本評論社，2012。	
〔前提科目〕 マクロ経済学、財政学、労働経済学 など。 財政学、労働経済学に関連する分野については講義中に適宜説明を加える予定であるが、特に財政学は履修済みもしくは履修中であることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・ 理解度確認のためのクイズ ・ 小レポート ・ 期末試験（筆記）	
〔評価の基準及びスケール〕 小レポート、クイズ、期末試験の合計の80%以上をA、70%以上80%未満をB、60%以上70%未満をC、50%以上60%未満をD、50%未満をFとする。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 受講生の理解度を見ながら進度を決定するので、シラバスの通りには進まない可能性がある（制度改革の進捗状況にも左右される）。また、一つのテーマを複数時間に分けて講義するので、可能な限り出席するようにすること。出席はとらないが、出席していることが基本であるから、それを前提に講義を進める。 限られた授業時間数の中では、個別の社会保障制度について詳細に説明するのは難しく、また受講生にとっても講義のみで理解することは不可能だと思う。すくなくとも制度の概要程度は、指定図書を参考に、自ら把握するよう自習すること。棕野・田中『はじめての社会保障』は制度について詳細かつ丁寧に整理されている。 社会保障は、私達の生活に深い関わりあいを持っている。自分なりの興味や関心を持って、授業に臨んでほしい。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ（何を学ぶか）： 社会保障とは何か 内 容： ガイダンス、社会保障の考え方（1） 社会保障とは何か、歴史的展開 教科書・指定図書 棕野・田中（2021年3月末刊行予定のため、該当する章については講義の中で説明する。以下、同様）、小塩（第1章）など
第2回	テーマ（何を学ぶか）： 内 容： 社会保障の考え方（2） 日本の社会保障制度の展開と時代背景 教科書・指定図書 棕野・田中
第3回	テーマ（何を学ぶか）： 内 容： 社会保障の考え方（3） 政府の介入が必要とされる理由、負担と給付のあり方 教科書・指定図書 小塩（第1章）

第4回	テーマ（何を学ぶか）： 社会保障と国民負担・財政収支（1） 内 容： 国民経済計算，マクロ統計からみた社会保障 教科書・指定図書 小塩（第2章）
第5回	テーマ（何を学ぶか）： 社会保障と国民負担・財政収支（2）、社会保障の担い手 内 容： 財政収支と国民負担 社会保障における実施主体 教科書・指定図書 小塩（第2章）
第6回	テーマ（何を学ぶか）： 所得再分配に対する社会保障の役割 内 容： 日本の所得格差、再分配後の所得格差 教科書・指定図書 小塩（第3章）
第7回	テーマ（何を学ぶか）： 社会保障制度の概要についてのまとめ 内 容： 社会保障制度の概要の確認 および クイズによる理解度の確認
第8回	テーマ（何を学ぶか）： 公的年金制度 内 容： 公的年金制度の意義と体系、財政 教科書・指定図書 棕野・田中，小塩（第4章）
第9回	テーマ（何を学ぶか）： 内 容： 公的年金制度の理念と仕組み 教科書・指定図書
第10回	テーマ（何を学ぶか）： 内 容： 公的年金制度の抱える問題点と制度改革 教科書・指定図書 小塩（第4～6章）
第11回	テーマ（何を学ぶか）： 医療保険制度 内 容： 医療保険制度の理念と仕組み（1） 教科書・指定図書 棕野・田中，小塩（第7章）
第12回	テーマ（何を学ぶか）： 内 容： 医療保険制度の理念と仕組み（2） 教科書・指定図書
第13回	テーマ（何を学ぶか）： 内 容： 医療保険制度の抱える問題点 教科書・指定図書 小塩（第7・8章）
第14回	テーマ（何を学ぶか）： 公的扶助 内 容： 生活保護制度の概要 教科書・指定図書 棕野・田中
第15回	テーマ（何を学ぶか）： 内 容： 生活保護制度の課題 教科書・指定図書 棕野・田中，小塩（第10章）
試 験	